を証明し得た。本菌はニジマスに特異的強毒力を示すと共に一般淡水魚にも毒性を発揮するが、人間、家兎、海狸、ラッテ、マウス等の温血動物に対しては非病原性であつた。感染経路は特に皮膚損傷部より感染し易いが、他に眼球、鰓、肛門、消化管等からも感染し得ることを実験的に立証した。本病の治療は安価な Sulfathiazole の連日経口投与が効果的で、予防には池水の Malachite green に依る消毒法を有望とするが、確実性のあるのはワクチン注射であり、少くとも1回の処置で3カ月間効果多大なることを実験的に証明すると共に、免疫血清学的にも凝集素、補体結合素等の抗体が産生され、血清蛋白に於ては γ -globulin の増加を認めた。(新潟大・細菌、新潟大・医動物、新潟県・水産課)

家庭害虫 *Liposcelis* について

朝比奈正二郎 多田 茂子

Asahina, S. & Tada, S.: Liposcelidae
as house hold pest in Japan

近年欧米では倉庫内の貯蔵食品の害虫の一つとして、茶柱虫類 (Corrodentia) の *Liposcelis* が重要視されて研究が進められ、特に E. Broadhead (1950) に依つて、相当詳しい論文が纏められた。本邦にも此の *Liposcelis* が棲息している事は以前より知られているが、その名称、形態、生活史、加害、及び防除法等については、全く何も分つていなかった。にも拘わらず、此の屋内棲息種は雑食性で繁殖甚大、特に家庭内の貯蔵食品、書籍等にはびこつて、相当な被害を与え、日常生活に非常に関係深い衛生昆虫と考えられる。当研究室でも昨年夏より之の研究に着手し、集つた材料によつて、*Liposcelis bostrychophilus* ヒラタチャタテ (新称)、*Liposcelis entomophilus* カツブシチャタテ (新称)、*Liposcelis simulans* (race A) ソウメンチャタテ (新称) の三種を同定、名称を確定し、其の生活史の概略を知つた。(予研・衛生昆虫)

ヒメネズミに寄生する *Hoplopleura* 属 (*Hoplopleuridae*, *Anoplura*) の一新種

金子 清 俊

Kaneko, K.: Description of a new
species belonging to genus *Hoplopleura*
(*Hoplopleuridae*, *Anoplura*) collected
from *Apodemus argenteus*

日本産虱虱の分類学的研究第1報に於て *Apodemus speciosus* (アカネズミ) 及び *Apodemus argenteus* (ヒメ

ネズミ) より採集した虱を *Hoplopleura affinis* と一応同定し報告したが、その後これに就いて詳細に検討した結果アカネズミに寄生する虱とヒメネズミに寄生するものとが明かに異つた特徴を有する事を認めた。即ち佐々氏が1950年にアカネズミより採集したものを、*Hoplopleura akanezumii* として新種で発表された。其の後大野氏が1955年本州及び北海道産のアカネズミとヒメネズミより採集した標本で、*Hoplopleura akanezumii* を再記載した。この種は *Hoplopleura affinis* と非常に類似し、著者が現在迄ヒメネズミより採集したものは、*Hoplopleura apomydis* Ferris, 1921 に類似している。従つて以上の二種は、朝鮮産の *Apodemus agrarius* より記録された *Hoplopleura affinis* と、比島産の *Apomys hylocoetes* より記録された *Hoplopleura apomydis* との中間の特徴を具えている。然しヒメネズミより得たものは、他の近似種と明かに差異が認められるので新種と考えられ、近く詳細な記載を発表する。(東京医歯大・医動物)

日本新記録のノミ属 *Stenischia* に属する1新種

中 川 宏

Nakagawa, H.: A new flea of *Stenischia*,
the first record of the genus from Japan

Stenischia は雲南・四川の両省に対して行われた Kelly-Roosevelt 調査団の採集品 (1 ♀) に基づいて、Jordan (1932) が新種を記載し、その種を genotype として、新属を設立したもので、原記載以後、何ら本属に対する報告はない。従つて今回見出された種類は *Stenischia* における第二の種類であり、且つ本属が雄の特徴、特に生殖器の形態に基づいて、*Rhadinopsyllinae* 亜科における他属との類縁関係の検討を可能ならしむるものである。

Rhadinopsyllinae 亜科は *Corypsylla*, *Rhadinopsylla* を始めとして、Traub (1953) の *Wenzella* に至るまで現在7属を含むが、本属は次の特徴から明らかに区別することができる。1) 前頭縁は明瞭な額小歯をもつ。2) 頬剛棘櫛は5本の剛棘からなり、水平におかれる。このうち最上位の剛棘は他のそれに比べ、短かく、幅も狭い。3) 下唇は5節からなり、第5節は最も短かく、先端に彎曲した小剛毛をもつ。4) 腹胸脊板側域 (L.M.A.) は特異な形を示し、斜位におかれた逆位の三角形で、後胸側板に強く突出する。5) 全基節は幅が狭い。第3基節の裏面に小剛毛による patch がみられる。(*Tichopsylla*, *Pa-*